

## 新型コロナウイルス感染対策

- ・マスクを着用して下さい
- ・密にならないよう、まわりの方と距離をおいてください

### 国指定史跡

まごしながひづかこふんぐん

# 馬越長火塚古墳群

# 現地見学会

6世紀末～7世紀前葉

馬越長火塚古墳群は、長火塚古墳と大塚南古墳、口明塚南古墳の3基の古墳からなります。6～7世紀にかけて、東三河地方を治めた代々の有力者の墓であり、東海地方を代表する古墳時代後期・終末期の首長の墓と評価され、平成28年に国の史跡に指定されました。

### ◆調査の経緯

豊橋市では、この古墳群を活用するための事業を計画しています。今回の調査は、今後の古墳の復元や整備の根拠を得るために行うものです。

### ◆立地

東から西に向かって細長く伸びた台地の上に、それぞれの古墳があります。谷を挟んで、東の長火塚古墳が三角形の頂点になるようにして、古墳が配置されています。古墳群の北側にある山には、権現山古墳群や勝山1号墳など、前期の首長たちの古墳があり、馬越長火塚古墳群はあたかも古くからの権力を受け継ぐことをアピールしているかのようです。

### ◆馬越長火塚古墳

6世紀末葉に築かれた、全長70メートルの前方後円墳で、6世紀後葉以降では東海地方最大の古墳です。

墳丘はくびれのとぼしい一段目に、緩やかな傾斜となる2段目があり、さらに後円部の中央がドーム状に高まる3段目があるという特殊な形で、東海地方ではほかに例がありません。奈良県や岡山県、熊本県、長崎県壱岐島など西日本の各地に類似した古墳があり、西日本の首長た



馬越長火塚古墳出土の金銅装馬具  
(棘葉形杏葉)



馬越長火塚古墳出土の玉類

ちと深く関係した人物の墓でしょう。

横穴式石室は、柱状の石(立柱石)で通路(羨道)と前後2室に分けられた遺体を安置する空間(玄室：前室と後室)に分けられます。奥壁には1枚石の巨石を使い、前室・後室それぞれ天井が中央で丸く高くなる、典型的な三河地方の「複室構造」の石室です。

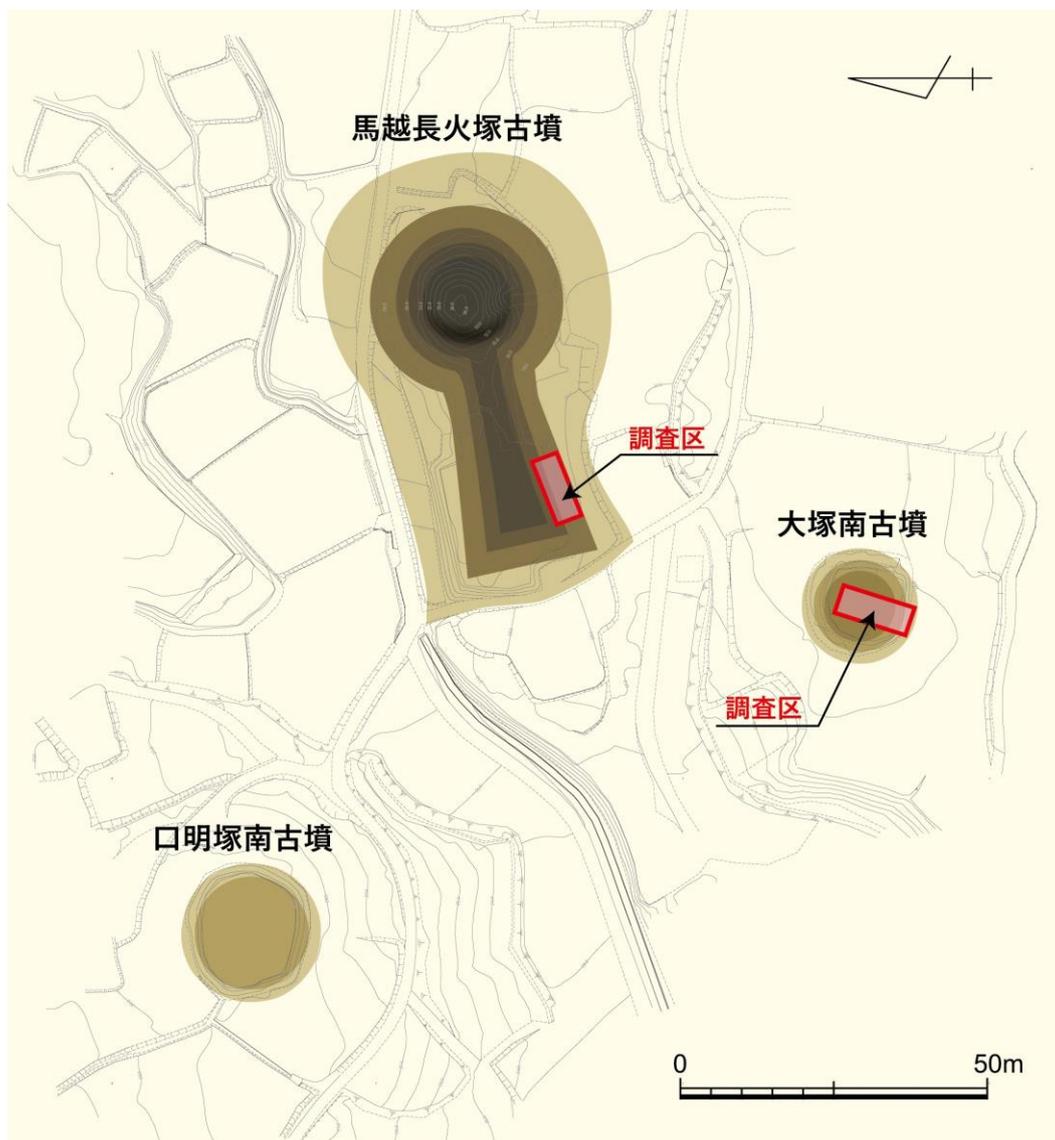
副葬品は朝鮮半島との関わりが深い金銅装馬具(金メッキされた馬具)、トンボ玉を含む玉、墓前のマツリに使用した大量の須恵器(古墳時代の陶器)があり、東海地方を代表する後期古墳の出土品として、平成24年に国の重要文化財に指定されています。

#### ◆大塚南古墳

直径19メートルの円墳で、造成されて上部は平坦に削られています。長火塚古墳に続く7世紀初頭に築かれたと考えられ、以前の発掘調査で横穴式石室があること、金銅装馬具が副葬されていたことが明らかになっています。

#### ◆口明塚南古墳

直径23メートルの円墳で、やはり上部が削られて平坦になっています。大塚南古墳に続く7世紀前葉に築かれたと考えられ、金銅製の玉や毛彫り馬具(線状の文様を彫り込んだ馬具)などが出土しています。



馬越長火塚古墳群と発掘調査区の位置

# 馬越長火塚古墳

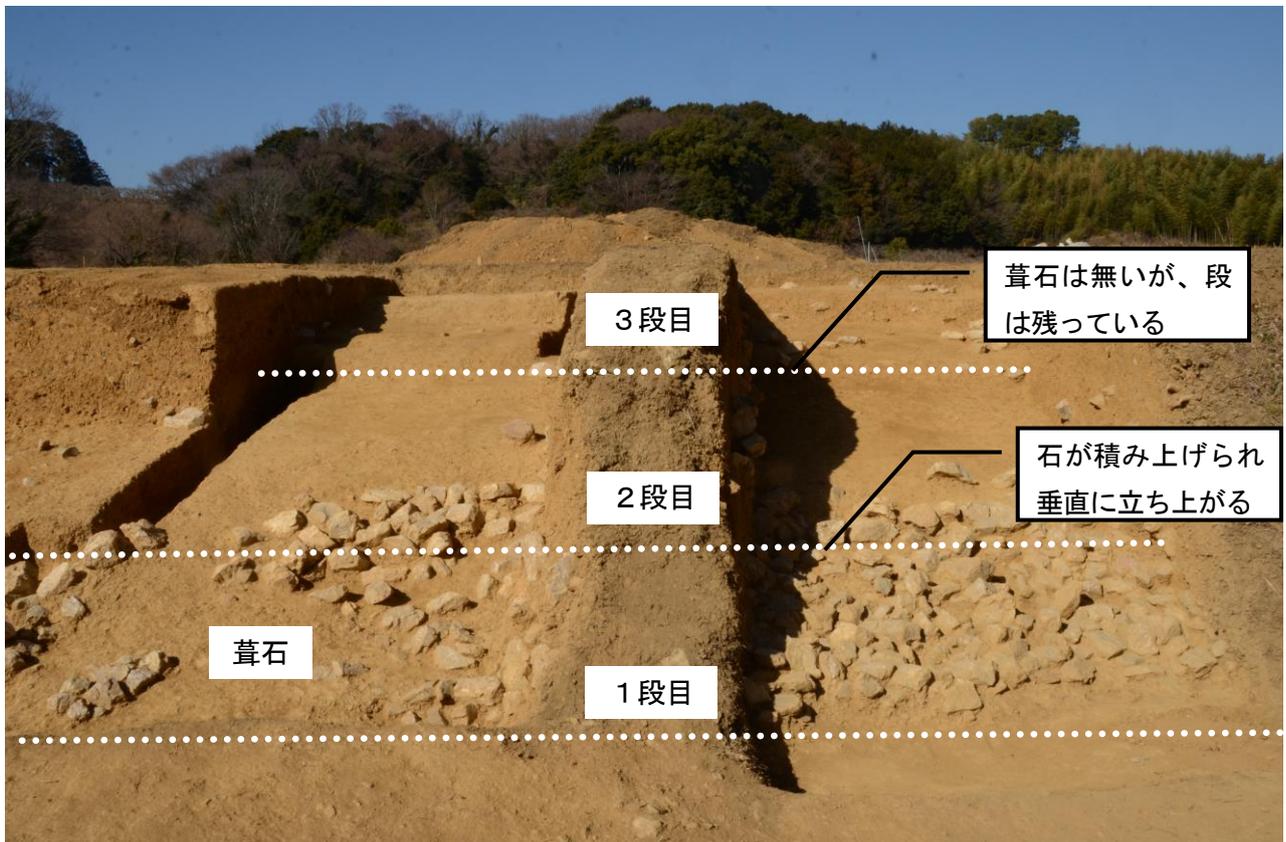
## -前方部の確認調査-

馬越長火塚古墳の前方部の西側半分ほどは、明治時代以前に桑畑に変えられていました。長火塚古墳を整備し活用するためには、前方部の本来の姿を明らかにすることが必要です。

そこで、南側の側面を30平方メートルほど発掘調査しました。畑の造成土を取り除いたところ、本来の前方部が姿を現し、古墳の表面を覆う葺石も一部が残っていました。

以前の発掘調査で、長火塚古墳の2段目は細かくさらに3段以上になっていることが判明しましたが、今回の調査でも、墳丘自体に段を設け、また葺石を積み上げるなどして、細かな段に分けていることが判明しました。

じつに特殊な墳丘のかたちです。



前方部の葺石

# 大塚南古墳

## -横穴式石室の確認調査-

今回の調査は、石室の残存状態やかたち・規模を明らかにするために行いました。

結果から言うと、横穴式石室は後世に石材を採取するために、大きく破壊されていることが判明しました。一方で、石室は側壁の石材を徹底的に抜き取り、不要な天井石や奥壁の巨石は並ぶように残されていたことから、組織的かつ統制がとれた破壊方法がうかがわれます。石巻地区に伝わる、吉田城石垣の石材採取の伝説を示すものかもしれません。

かろうじて残った側壁や立柱石の存在から、大塚南古墳の石室は長火塚古墳の石室の技術を受け継ぐ、全長8メートルの複室構造と判明しました。

下の写真は、石室の羨道（通路）部分です、不格好な立柱石が立ち、床面には排水溝の蓋石と思しき石が並んでいます。



破壊された横穴式石室